

一般社団法人日本計量生物学会
試験統計家認定制度 細則

1. 責任試験統計家は実務試験統計家の上位の資格である。責任試験統計家と実務試験統計家の両方の資格を同時に保有することはできない。したがって、以下のように扱う。

- 1) 実務試験統計家はその資格を有しながら責任試験統計家の認定申請を行い、責任試験統計家の認定要件を満たした場合、責任試験統計家としての認定のみを行う。
- 2) 責任試験統計家はその資格更新が困難である場合に、その資格を有しながら実務試験統計家の認定申請を行い、実務試験統計家の認定要件を満たした場合、実務試験統計家としての認定のみを行う。
- 3) 試験統計家の資格を有さない者が、同年度に実務試験統計家と責任試験統計家の認定申請を行い、両方の認定要件を満たした場合、責任試験統計家としての認定のみを行う。

2. 「臨床試験のための統計的原則 (ICH E9 ガイドライン)」および「統計家の行動基準」に関する理解については、学会が定める講習会に参加することを要件とする。なお、講習会への参加から試験統計家認定の申請までの期間は 3 年を超えてはならない。ただし、以下の場合には講習会への参加は要件としない。

- 1) 試験統計家認定の更新の申請を行う場合
- 2) 実務試験統計家が認定の有効期間内、あるいは有効期間の満了から 90 日以内に責任試験統計家認定の申請を行う場合
- 3) 責任試験統計家が認定の有効期間内、あるいは有効期間の満了から 90 日以内に実務試験統計家認定の申請を行う場合

3. 以下の講座・コースの修士課程修了生のうち、所定の講義・実習に参加したことを各課程の責任者が認めた者については、1. の学会が定める講習会の参加に関する要件を免除する。なお、免除の適用にあたっては、修士課程修了から試験統計家認定の申請までの期間は 4 年を超えてはならない。

- 1) 国立研究開発法人日本医療研究開発機構「生物統計家育成支援事業」および「生物統計家育成推進事業」により設置された東京大学大学院医学系研究科生物統計情報学講座および京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻臨床統計家育成コース

4. 試験統計家認定の有効期間は原則 5 年とする。ただし、更新時期を一定とするために有効期間を±6 か月の範囲で調整することがある。

5. 試験統計家認定の更新の申請は、有効期間内または有効期間の満了後 1 年以内に行わなければならない。

6. 試験統計家認定の更新を申請する者は、下記の要件をすべて満たすものとする。

- 1) 認定の有効期間（原則 5 年間）継続して学会の正会員であり、申請時点で正会員であること。
- 2) 有効期間内に新たに 30 単位を取得していること。単位については以下のとおりとする。
 - ・ 日本計量生物学会年会参加 10 単位
 - ・ 計量生物セミナー参加 5 単位
 - ・ 計量生物学講演会参加 2 単位
 - ・ 統計関連学会連合大会参加 5 単位
 - ・ International Biometric Conference 参加 5 単位
 - ・ East Asia Regional Biometric Conference 参加 5 単位
 - ・ 上記学会・セミナー・講演会における発表（口頭・ポスター）
 - 学会・セミナー・講演会あたり、5 単位（筆頭者）
 - 学会・セミナー・講演会あたり、3 単位（筆頭者以外）
- 3) 実務試験統計家については有効期間内に新たに臨床試験の実務経験（試験計画書・解析計画書作成，解析，報告書・論文作成等）を有すること，責任試験統計家については有効期間内に新たに臨床試験の実務経験（試験計画書・解析計画書作成，解析，報告書・論文作成，試験企画，データモニタリング委員会委員，統計解析アドバイザー，試験統計家の管理者等）を有すること。

7. 本細則は、2023 年 10 月 1 日より施行する。

制定 2017 年 4 月 1 日
改定 2017 年 11 月 1 日
2020 年 4 月 1 日
2021 年 4 月 1 日
2023 年 10 月 1 日